

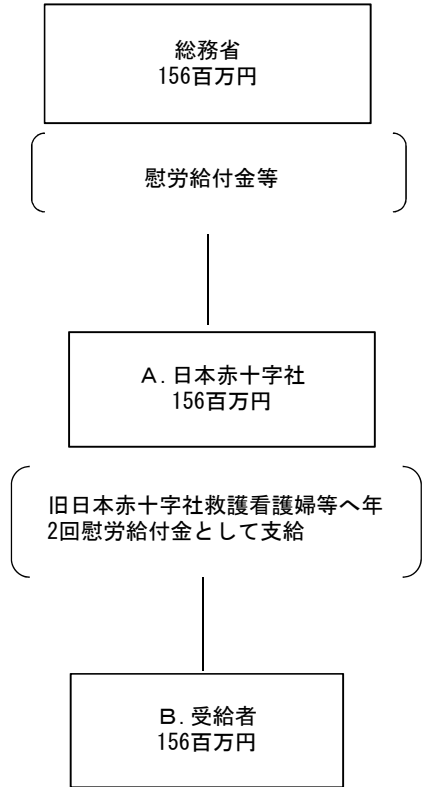
平成27年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	旧日本赤十字社救護看護婦等処遇経費			担当部局	大臣官房		作成責任者		
事業開始年度	昭和54年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課管理室		室長 河合 暁		
会計区分	一般会計			政策・施策名	VII-1 一般戦災死没者追悼等の事業の推進				
根拠法令(具体的な条項も記載)	総務省設置法(第4条第90号)			関係する計画、通知等					
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	旧日本赤十字社救護看護婦等の労苦に報いるために採られた特例的な措置。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	先の大戦において、戦地・事変地に派遣され、看護婦として勤務された方々に対し、勤務期間に応じて慰労給付金(3年以上の戦地勤務期間があって、恩給と同様の加算年を加えて12年以上に達する本人が対象)の支給を行っている。								
実施方法	補助								
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
		補正予算	0	0	0	0			
		前年度から繰越し	0	0	0	0	0		
		翌年度へ繰越し	0	0	0	0			
		予備費等	0	0	0	0			
		計	200	180	159	144	124		
	執行額	193	173	156					
執行率(%)	97%	96%	98%						
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度	年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								<input type="checkbox"/> チェック	
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と24~26年度の達成状況・実績				
		慰労給付金の支給件数は自然減が見込まれ、また、その支給等は請求を受けて行われることから、定量的な成果目標を設定することは困難。			・慰労給付金の円滑な支給。 ・平成24年度から26年度までの間において、日本赤十字社において慰労給付金の円滑な支給を実施。				
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度	年度
	過去の支給件数の自然減を踏まえた適正な慰労給付金の計上(予算額-給付金確定額≥0)	予算額-給付金確定額	実績	百万円	7	7	3	-	0
			目標値	百万円	-	-	-	-	-
			達成度	%	100%	100%	100%	-	-
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
	慰労給付金の支給件数		活動実績	件	871	791	701		
			当初見込み	-	-	-	-		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込		
			単位当たりコスト	百万円	0.2	0.2	0.2		
		執行額/支給件数	計算式	百万円/件	193/871	173/791	156/701		
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由					
	補助金	144	124	慰労給付金の支給件数の自然減					
	計	144	124						

事業所管部局による点検・改善						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		-			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	・旧日本赤十字社救護看護婦等の労苦に報いるため、国庫支出により日本赤十字社において慰労給付金を支給する事業として制度設計されている。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		-			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-			
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	・費目・用途は、慰労給付金の支給に限定している。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-			
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		-			
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		-			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-			
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-			
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
点検・改善結果	点検結果	旧日本赤十字社救護看護婦等に支給するための慰労給付金を日本赤十字社に適切に交付している。				
	改善の方向性	慰労給付金の支給を円滑に実施するため、旧日本赤十字社救護看護婦等への支給状況を把握しつつ、適切に対応していく。				
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	慰労給付金の支給件数の自然減を考慮しつつ、引き続き適正な執行に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	慰労給付金の支給件数の自然減を考慮しつつ、引き続き適正な執行に努める。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	0150	平成23年度	0150	平成24年度	0143	
平成25年度	0144	平成26年度	0141			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A. 日本赤十字社			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
給付金	慰勞給付金	156			
計		156	計		0
B. 受給者			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
-	-	-			
計		0	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A. 日本赤十字社

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本赤十字社	慰労給付金	156	-	-

B. 受給者

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人A	慰労給付金	0.4	-	-
2	個人B	慰労給付金	0.4	-	-
3	個人C	慰労給付金	0.4	-	-
4	個人D	慰労給付金	0.4	-	-
5	個人E	慰労給付金	0.4	-	-
6	個人F	慰労給付金	0.4	-	-
7	個人G	慰労給付金	0.4	-	-
8	個人H	慰労給付金	0.4	-	-
9	個人I	慰労給付金	0.4	-	-
10	個人J	慰労給付金	0.4	-	-

支出先上位10社リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載

チェック